

蒲郡市指定無形民俗文化財

く 猛し漢と山車 天下の奇祭く

# 三谷祭

蒲郡市立西浦中学校 教諭 本多 浩一

三谷六区をあげて、村の発展とともに、祖先崇拝と郷土愛を心の糧に、先人の残した文化遺産を現代に受け継ぐ祭りである。



八剣神社前での山車揃え

三谷祭は、三谷町にある西の八剣神社および東の若宮神社の例大祭である。元禄9年(1696年)8月のある夜、三谷村の庄屋「佐左衛門」が「この郷の産子神である八剣大明神が、村の東辺の若宮八幡(若宮神社)へ渡御なされた」という夢を見たと言われている。佐左衛門は、「これはまさしく神のお告げである」と、早速、神輿を設え八剣宮のご神霊を移し、若宮へお渡しした。これが「三谷祭」の始まりと言われ、今日に至っている。

全村挙げて組織化された祭礼の最も古いものは、正徳2年(1712年)に記録があり、その頃から村全体の行事となっていたと思われる。その後、村の発展と共に祭りは盛大になり、京都祇園祭の影響を受けたとされる絢爛



海中渡御に向かう上区「剣の山車」

豪華で雄大な山車を、各区が競って建造し、これを海中に曳き入れて渡り、賑やかな余興を奉納するようになった。創始当初から重陽の節句(9月9日)当日を祭日として神幸の儀式(神輿渡御)が執り行われてきた。しかし、現在では、潮位の関係から10月第3日曜日か第4日曜日を原則として行われている。

## 厳肅な中、神との対話から始まる

華やかな奉納芸能に目が奪われがちだが、その実は祭祀が厳肅に執り行われ、神との対話から祭りは始まる。神饌(神様に献上する食事)を供え、また神田でとれた米で作った白酒などを捧げるなど、上代からの形式が残る儀式が行われる。その頃、拝殿前では祭りの始まりを宣言する事触れが行われた後、祭文が称えられ、神を鎮め、また、豊川水系の十数ヶ所に残る疫鬼を押さえる笹踊り(くぐり太鼓)を神へ捧げる。

### (1) 山車揃え

4台の山車が、各区をにぎやかに出発して西の八剣神社に集まる。並んだ光景は美しく、観客を魅了する。

## 各区でそれぞれの色をもつ祭り

三谷祭は、松区・東区・上区・西区・北区・中区の6区が子踊りや伝統の練(踊り)などを奉納し、祭りを盛り上げる。

### (1) 松区(笹踊りくぐり太鼓)

「くぐり太鼓」は、歌詞もお囃子もなく、三つ巴文様をあしらった親太鼓一人と小太鼓二人の計三人が、太鼓をたたき、素朴かつ単調なリズムで一見地味に見えるが、力強さと重厚さがあり、味わい深いものである。

### (2) 東区(神船若宮丸)

東区の山車は、「神船若宮丸」という船形の山車を持つ。地元の人々からは、「お船さん」と親称されている。

### (3) 上区(スサノオの舞と子踊り)

スサノオの舞は、天孫降臨の古事にちなんでおり、スサノオノミコトをはじめとした6神によって舞われる。踊りの手具には、扇・綱・剣・鈴の4種類がある。子踊りは、スサノオの舞のお付きの踊りとして始まり、現在は小学1年〜6年の男女が参加し、当日は祭りを華やかにしている。

### (4) 西区(獅子神楽)

獅子神楽は、獅子の面をかぶって舞を踊る。さらにその舞が終わると、古くから続く「朝顔日記」と呼ばれる歌舞伎の演目が奉納される。

### (5) 北区(七福神踊り)

七福神踊りとは、白狐・福祿寿・毘沙門天・寿老人・布袋・大黒天・蛭子(恵比寿)による踊りを指し、「綱」

「杖」「鈴」の3種類の踊りから成る。三谷祭では、弁財天がキツネに化けて加わっているとされている。

### (6) 中区(連獅子踊り)

連獅子踊りは「連れ獅子」「狂い」「巴」「登り」「御神楽」の5種類から成り、白毛4人と赤毛4人の8人が、二人一組で踊る。白毛の踊り子を「親」、赤毛の踊り子を「子」と言う。切れよく踊ることが肝要とされ、長い赤白の髪が自在に動く様は、見ている側の心を奪う。

三谷町民は子どもも大人も一緒にあって楽しめる三谷祭の開催を楽しみにしている。伝統を現代、そして未来につなげられるよう町民一体となって「三谷祭」を受け継いでいきたい。



(1) 松区・くぐり太鼓



(2) 東区・神船若宮丸



(3) 上区・スサノオの舞



(4) 西区・獅子神楽



(5) 北区・七福神踊り



(6) 中区・連獅子踊り